

# アドバンス・ケア・プランニング(ACP) 市民講座 ～考えてみませんか？どこで、どう生き、どう最期をむかえたい～

令和元年 11月30日(土) 14:00~16:30(開場 13:30)

松江市総合福祉センター4階大ホール 参加者 180人 関係者・協力者 33人

司会 村田 陽子先生

松江赤十字病院 副院長

挨拶 松嶋 永治先生

まつえ ACP 普及・啓発推進協議会 会長  
松江市医師会副会長、まつしま脳神経内科クリニック院長

寸劇「家で暮らそう」 劇団人生会議

(参考・脚本提供：NPO法人エナガの会)

講演「一切なりゆき派」と「ACP派」

講師 徳永 進先生 野の花診療所(鳥取市) 院長

座長 竹内 俊介先生

松江市・島根県共同設置松江保健所 所長

運営スタッフ ACP協議会幹事、松江市  
松江市・島根県共同設置松江保健所  
松江市社会福祉協議会



## 劇団人生会議

(出演順・敬称略)

配役	所属団体(勤務先)	氏名
ナレーション	松江圏域老人福祉施設協議会 (特別養護老人ホーム明翔苑)	武部 幸一郎
退院までの解説	医療法人財団 公仁会 鹿島病院	川谷 清美
主人公 (松江 裕次郎)	松江市公民館長会 (城西公民館)	森 泰
主人公の妻 (松江 小百合)	認知症キャラバンメイト	外谷 一子
ケアマネジャー	松江地域介護支援専門員協会 (ゆめ福居宅介護支援事業所)	河野 美波子
歯科医師	一般社団法人松江市歯科医師会 (医療法人 大町歯科医院)	大町 健介
訪問看護師	島根県訪問看護ステーション協会松江支部 (訪問看護ステーション Aoi)	渡部 秋恵
在宅医師	一般社団法人松江市医師会 (医療法人 伊藤医院)	伊藤 健一
薬剤師	一般社団法人松江市薬剤師会 (グリーン調剤薬局 西川津店)	辻野 裕介
ご近所さん	一般社団法人松江市医師会 (医療法人社団 泉胃腸科医院)	泉 明夫
松江家のお嫁さん	公益社団法人島根県看護協会	原 徳子
救急隊員 A	医療法人 仁風会八雲病院	貝谷 昭
救急隊員 B	総合病院 松江生協病院	門脇 章子
病院の医師	松江市立病院	池田 貴美江
警察官 A (銭形)	松江赤十字病院	真鍋 敦
警察官 B (コロombo)	終活カウンセラー (さざんか行政書士事務所)	長谷川 正樹



## 主催：まつえアドバンス・ケア・プランニング普及・啓発推進協議会

後援：松江市医師会、松江市立病院、松江赤十字病院、医療法人社団創建会、医療法人青葉会松江青葉病院、総合病院松江生協病院、医療法人公仁会鹿島病院、東部島根医療福祉センター、松江圏域老人福祉施設協議会、島根県訪問看護ステーション協会松江支部、松江地域介護支援専門員協会、公益社団法人島根県看護協会、島根県弁護士会、松江市公民館長会、松江市社会福祉協議会、松江市・島根県共同設置松江保健所、松江市

**寸劇「家で暮らそう」あらすじ (参考・脚本提供：NPO法人エナガの会)**

裕次郎さんは奥さんと二人暮らし。ひどい腹痛で救急車で急性期病院に入院。がんの末期でした。治療の甲斐あって痛みは薬で抑えられましたが、家での生活に不安があり療養病院へ転院。リハビリや食事内容の検討、介護保険の申請や住宅改修など自宅へ帰る準備をしました。

退院後は在宅療養を支える人たちが次々と訪問します。ケアマネジャーは本人や家族の意向を確認しながら医療や介護の資源を調整します。

ケアマネジャーが訪問した際に食事が進まないことが分かり歯科を受診しました。義歯の調整や食事内容を相談し、食べたい物が食べられ喜び裕次郎さんでした。

体調管理のために訪問看護師が訪問し、お腹の痛みがあるのに薬が飲みづらいことが分かりました。訪問看護師からかかりつけ医・薬剤師へ連絡し、訪問診療や薬剤指導が行われます。

隣に住むおじさんもやってきて、裕次郎さんがこれまで地域で貢献してきたことを色々教えてほしいと話します。裕次郎さんはこれから地域や人のために何かしたいという気持ちを話し、それを聞いて隣のおじさんも喜んでいきます。

自宅で療養をしていた裕次郎さんですが、少しずつ状態は悪化します。ある朝お嫁さんが、裕次郎さんのところへ行ってみると亡くなっていました！あわてて救急車を呼びますが、亡くなっているため病院へは運ばれず、警察に連絡することになってしまいました。

この騒動は夢でした。ひと安心です。でも、どうすれば穏やかに最期を迎えられたのでしょうか？  
 (1)もしもの時はどうするのか考えて、身近な人や医療や介護の関係者とよく話し合う。緊急時は慌てるので連絡先が分かるようにしておく。  
 (2)かかりつけ医を持ち、必要な診察を受け、日頃から体調を管理する。

実は裕次郎さんはこれからどう生きたいか、もしもの時はどうしたいか考え終活支援ノートを書きました。裕次郎さんは家族や医療や介護の関係者の皆さんと、想いを伝え合います。最期の時が近く、体の変化だけでなく心も揺れ動きますが、自宅で最期まで過ごそうと決めます。そして、様子の変化に気づいた家族が連絡し訪問看護、医師が訪問します。家族に見守られる中、裕次郎さんは最期の時をむかえます。



**講演「一切なりゆき派」と「ACP派」**

海外ではいい天気の日をあいつが「こんな日に死にたいね」と、身近に死を話題にできる文化もある。日本の死生観では生は価値があるが死は無価値のように考えられがち。

雑誌「緩和ケア(2019年5月号)」特集「アドバンスケア・プランニング光と影」より、ACP 基本的知識をお話し頂く。その中で、重篤な疾患を持つ方には傷つけない言葉を選ぶことが大切。意思は揺らぐもの。病院と在宅を行き来できる連携の工夫について「ふくろうシート(松戸市緊急時連絡シート)」を紹介。

野の花診療所の看取りエピソードを、ユーモアを交え本人や家族を称えつつ多数紹介。多くの人は思いがけず死を迎える。いざ死を目の前にすると当初とは異なる意思を表明されることが往々にしてある。在宅医療では瞬発力を以て対応する必要がある。

「死の場所」の目指したい数値「病院(ホスピス病棟含む)60% 在宅 25% 老人施設 15% その他 5%」そのためには ACP を広げる必要がある。「その他」の増加にも期待。

**アンケート結果(一部抜粋)**



回収 160 件(回収率 89%)

- 【性別】 男性 21% 女性 79%
- 【年代】 50 代以下が 1/3(上図参照)
- 【地域】 市内 75% (25 公民館区)
- 【所属】 医療 18% 福祉 12% (看護師 15 件、ケアマネ 4 件)
- 【知ったきっかけ】 社協だより 33%、知人から 27%、ちらし・ポスター 24%、新聞 18%
- 【感想】 良かった・大変良かった 寸劇 73%、講演 77%
- 【自由記載(72 件)】 「わかりやすかった」「死について楽になれそう」「家族の看取りを思い出した」「また聞きたい」「考えたい」「かかりつけ医→訪問医師は松江にどれくらいいらっしゃる？他の体制は整ってる？」「在宅医療について詳しく知りたい」「(寸劇)いろいろなところで行ってください。多くの方に知ってほしい」「どのように最期を迎えるか考えるきっかけになった」「ACP むずかしいが考えていかないといけませんね」「なりたい看護師像がはっきりした」「ゆれることを受け入れてよいと分かり安心した」